

# 岡山SRH研究会 会報誌～第12号～



すっかり秋らしくなってきました。  
暖かく感じたり冷たく感じたりするこの季節の空気が、とても好きです。  
元気なときは、秋風の心地よさに誘われフットワークが軽くなり、活動的になれます。  
悩みや迷いのあるときは、静かに物思いにふけらせてくれる季節のようにも感じます。  
いろんな言葉やふれ合いが、不思議と心に染みる、そんな季節でもあると思います。  
みなさんにも、味わい深いこの季節を楽しんで過ごしていただきたいと、願います。

(運営委員会 会報誌係)

## 第18回 研修会報告



開催日時：平成20年7月12日(土)  
場所：ゆうあいセンター2階研修室

14:00～《性の現場にかかる私》

「若年化する性」 NHK岡山放送局ニュース取材部記者 森並慶三郎氏  
「県立高等学校における性教育実践例」 岡山南高等学校養護教諭 山下知子氏  
「看護専門学校教育の体験のふりかえり」 くにかたウィメンズクリニック師長 井上理絵氏  
「中学生の相談室は小さなアトリエ」 スクールサポーター 芦田はるみ氏

\*座長：岡山SRH研究会代表 上村茂仁

直接若者たちと関わっている4名の方を講師としてお招きし、それぞれの立場からのお話をいただきました。

若年化する性を問題視して追いかけていている森並記者からは、いまの岡山の若者達の現状を伝えていただき、取材ビデオではリアルな青少年の姿がありました。とても考えさせられる内容でした。しかし熱心に取り組まれる森並記者の姿には皆が大変励まされました。

養護教諭の山下先生は、いまの高校生に多方面から熱心な性教育活動をされています。その紹介をしていただくとともに、保健室で生徒に対応しながら肌で感じている、最近の子の変化や特徴を私達に知らせてくださいました。山下先生の思いの強さや温かさが、じーんと伝わりました。

専門学校で看護教員をされていた井上先生は、学生と密接に関わるなかで、彼女たちの悩みなども含め温かい目で見守ってこられました。専門学生は、中高生とはまた違う寂しさや不安を抱えていて、デートDVなど性に関する問題を抱える学生も多いということなど、新たな視点を与えていただきました。

中学校でスクールカウンセラーをされている芦田先生からは、学校で相談室を訪れる子ども達の姿や、対応するときの姿勢について学ばせていただきました。また、ご自身のこともお話くださり、子育てのエピソード等には参加者全員が大変感動し、涙あふれる素晴らしい会となりました。

### 参加者アンケートより

実際に日頃若者に関わっている方々のお話を聞いて大変良かったです。  
普段では聞けないような医療系の方以外の人からお話を聞けたので大変参考になりました。  
ありがとうございました。

看護学生として逃げ場を求めるということがあったんですが、まさしくその通りです。  
私自身実習中に逃げ場を求めてしまう傾向があるので、学生の気持ちがよくわかりました。  
私は医療現場で働いていますが、忘れた頃に10代の性感染症や妊娠などで入院された患者さまと関わることになり、その度悩まされるという現状です。  
本日学ばせていただいたことをこれから活かせたらと思います。  
いろいろと立場の違う人たちの意見を聞くのは参考になりますね。  
自分の知見を広げる良いきっかけになりました。



# 上村茂仁先生のコラム

…中学校で避妊を習いませんでした、だから中学生は妊娠しないと思って…

文部科学省からの性教育指導では、集団指導と個別指導があります。

年齢段階に沿った集団指導と、リスクの高い子どもに特別に行う個別指導です。

でもそのリスクは見た目では判断できないし、成績などにも変化は出ません。

いやむしろ、はじめておとなしい子が性の問題をよく起こします。

では何か見分ける指標はあるのでしょうか。

私のクリニックでアンケート調査をしました。

実際に妊娠や性感染症のリスクがあった子、性行為はあるがきちつとした考えを持って行動している子、まったくそのリスクがない子に別け、自己肯定感、不定愁訴、生活環境などの質問をしました。すると次の5つの項目に特に有意差が出ました。

朝食を食べていない 夕飯は一人で食べる 深夜0時以降に寝ることが多い

困ったことは親に相談しない もの忘れが激しい、です。

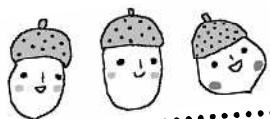
いかに家庭環境が重要であるかがよくわかりますね。

生活環境を整えること、子供の出すサインに気付いてあげること。

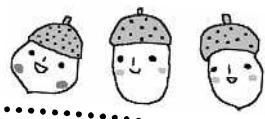
怒らないで話を肯定的に聞いてあげることなど、家庭の役割はとても重要なのです。

また義務教育である、中学生時代に一人で生きていいけるだけの性の知識を与えないで、社会に放り出すような、今の不十分な性教育が子供たちを不幸な状況にしています。

進学して性教育の機会がある子どもはともかく、進学しない子にはせめて、個別指導で具体的な知識を与えなければ、義務教育の意味を全くなさないと思います。



## コラムバトンリレー



岡山県立岡山南高等学校 養護教諭 山下 知子

この仕事を始めて約20年。『一期一会』の大切さを日々実感しています。生や性・命に関わる問題など、あまりに大きな荷物を抱えているケースでは、自分も一緒にになってへこんでしまう…そんな時もあります。でも、いろんなものを抱えてやってくる彼らの荷物を少しでも下ろしてあげることができた時、笑顔を取り戻して再出発する姿を見送る時、私自身もまた、元気をもらい笑顔を取り戻します。

子ども達ひとり一人が、もっともっと大切に愛されていたらと思うと同時に、そうしてあげることができない周りの人たちの生き辛さ、苦しさ、悲しさを感じこともあります。

あるがままを受け入れ、その人らしさを大切にして、あまり無理せず、自分なりに出来ること(すべきこと)に精一杯、誠意をもって取り組むこと。無いものねだりをするよりも、ささやかな物事にも幸せを感じ、それを周囲の人たちと分かち合える。そんな生き方ができれば、それで良いと思います。しかし、更に+として、高い志をもって社会的な役割や責任を果たすことの大切さも、仕事をする中、多くの方々から教えて頂きました。



自分の時間やエネルギーを誰かのために捧げ、何かを為すことができるということは、しんどい時もあるけれど、とても幸せなことだと思います。上村先生を中心とする、SRHの活動も、そんな取り組みの一つだと思います。すぐに答えが出せるものばかりではありませんが、皆さんと力を合わせて、頑張っていけたらいいな…と、思っています。これからも、よろしくお願いします。

追伸：私も、ピア活動 応援しています。頑張っていきましょう

## INFORMATION

\*次回研修会は11月16日(日)開催!  
性同一性障害について、皆で考えましょう。  
同封の案内用紙をご確認ください。

岡山 SRH 研究会 事務局 <お問い合わせ先>

FAX: 086-803-5336

E-mail: srh\_ok2000@yahoo.co.jp

